

詩作の浪漫的本質

6行-4

片山敏彦

詩は私たちの生活の中で一本の樹のやうに育つ。詩といふ無形の樹は、人間が持つ純粋なヴィジョンの律動をもつて成長し、現実生活の中で正しい可能性に向つて伸びる。詩の果実は、精神の正しい可能性の象徴としてみえる。

詩は單なる気分や情調以上のものであるとともに、言葉の單なる技巧以上のものであり、いはゆる感覺以上のものである。

詩は現実の中で人間が魂の眼を見みらくとき、形象とリズムとを通じて生まれる。

常識が習慣的な悟性にいたかつて却つて見のがしがちな現象の中にも、美しくおごるか

コスミッシュ

な、或ひは軽快で晴れやかな宇宙的な意義を、一回的な新鮮な形象に即して掘り起こす鋤のやうなものである。

それは知識が調和し得ない物と物とのあひ